

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年1月14 日

【評価実施概要】

事業所番号	0372700542		
法人名	藤沢町		
事業所名	グループホーム やまばと		
所在地	〒029-3405 岩手県東磐井郡藤沢町藤沢字町裏56 (電話) 0191-63-5310		
評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会		
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通3-7-30		
訪問調査日	平成20年10月17日	評価確定日	平成21年1月14日

【情報提供票より】(平成20年9月29日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 1 月 10 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤	8 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 7.9 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建て	1 階 ~	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,000 円	

(4) 利用者の概要(9月20日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名	
要介護1		名	要介護2	3 名		
要介護3	6 名		要介護4		名	
要介護5		名	要支援2		名	
年齢	平均	87.2 歳	最低	78 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	国保藤沢町民病院、千葉歯科医院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム「やまばと」は、隣接する国保病院との医療連携をはじめとして、保健センター、特養ホーム等と保健・福祉・医療との緊密な連携体制のもと、利用者の「これまでに培ってきた能力と意欲」を可能な限り把握し、「生活の場」「家族との連携」「地域交流」をキーワードにした新たな理念を定め、その実現に向かって、全職員が一体となってケアに当たっている。利用者も、それに応えるように職員との対話、笑顔を絶やすことなく、明るく楽しくのんびりと、その人らしくマイペースで生活していることが実感される事業所である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価では、「地域とのつきあい」「運営推進会議を活かした取り組み」「災害対策」が話題となっているが、「夕涼み会」や「いも煮会」等の交流を実施し、また、運営推進会議も委員から様々意見等が出され活かしている。なお、災害対策は、一人体制での避難訓練の実施を計画するなど、すでに改善済あるいは、実現に向けて取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員が 項目の評価記入に取り組み、管理者・職員がその後、幾度も話し合いを重ね、取りまとめをしている。その過程を通じて、評価に対する意義や大切さの理解を深め、より良い利用者支援を目指して取り組んでいる。今年度は、評価の気付きである緊急時や急変時の対応訓練に取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>隔月、定例的に開催しており、内容は利用者の様子やグループホームのサービス提供等の状況報告に止まらず、自己・外部評価や防災対策等、時機に応じた話題についても協議・意見交換が行なわれている。委員からは、「避難訓練の際の避難場所はわが家の軒先を利用してもよい」などの意見が出されるなど、活発かつ有意義な会議となっている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族会は設けていないが、行事の後などに交流の機会を常に設けて要望等を伺い運営に反映している。毎年、特定の課題等について利用者家族アンケートを実施しており、今年度は利用者の健康状態について共通認識を持つため「家族同行通院」についてのアンケートを実施し、意向を把握している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域で開催される文化祭や祭りのほか、各地区で開催される「お茶飲み会」などには、ほとんど参加している。「夕涼み会」や「いも煮会」などの行事は、グループホームが主催して地域の方々を招き、その参加者も年々増えて、その交流が深まってきている。</p>

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	昨年の外部評価を受けて、グループホームの地域密着性を特に意識して利用者支援にあたるため、全職員で話し合いを重ね、地域住民との交流・連携を目指すとの1項目を加え(※)、全職員が新たな気持ちで事業所の運営や、ケアにあたっている。		※【理念】1. 生活の場であるとの認識に立ち、常に明るく楽しい環境づくりをします。2. 家族との連携を密にし、共同生活における協調と利用者の人格を尊重します。3. 施設の特徴を生かし、近隣住民との交流を図りながら、地域に根ざしたグループホームを目指します。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者の生活暦や培ってきた能力及び意欲を細かに把握して、理念のもとで最大限活かせるようにカンファレンスやミーティング等で話し合いを重ねている。なお、職員等が理念を常に見て共有が出来るよう玄関や事務室に掲示し、ケアの実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域で開催される文化祭や祭りのほか、各地区で開催される「お茶飲み会」などには、ほとんど参加している。また、「夕涼み会」や「いも煮会」などの行事は、グループホームが主催して地域の方々を招き、その参加者も年々増えて、交流がより深まっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が 項目の評価記入に取り組み、管理者や職員がその後、幾度も話し合いを重ね、取りまとめを行っている。その過程を通じて、職員の評価に対する意義や大切さの理解が深められ、より良い利用者支援を目指して取り組んでいる。今年度は、緊急時や急変時の対応訓練に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月、定例的に開催されており、内容は利用者の様子やサービス提供等の状況報告に止まらず、自己評価や外部評価、防災対策等、時機に応じた話題について協議と意見交換が行なわれている。委員からは、「避難訓練の際の避難場所はわが家の軒先を利用してもよい」などの意見が出されるなど、活発かつ有意義な会議となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議など諸会議の場で連携交流を図るほか、町立のグループホームであるという特性を生かし、包括支援センターなどとは通常業務や人事異動などを通して、グループホームへの理解を得ながら普段から緊密な交流や、意見交換等が行なわれている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回発行する広報誌「あゆみ」に利用者の写真を掲載して、日常の暮らしの状況等を報告するとともに、担当者から利用者個々の暮らしぶりなどについて、お便りを添えてお知らせしている。職員異動は、その都度、広報でお知らせしている。なお、預かり金は、面会時に出納簿により報告し確認を得ている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会は設けていないが、行事等の際に交流の機会を設けて要望等をうかがい運営等に反映している。また、毎年、特定の課題について利用者家族アンケートを実施しており、今年度は利用者の健康状態について共通認識を持つため「家族同行通院」についてのアンケートを実施し、意向を把握している。	○	家族アンケート(「家族の同行通院について」)の例のように、家族等の意見等を得て介護支援に生かす方法・取り組みを今後とも期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今年度は、管理者と担当者2名の異動があったものの、経験者の転任で、介護支援では、特に影響は無かったとしている。なお、異動のあった際は、新任の方とベテランが一緒になって介護支援にあたるなど、ダメージの防止に努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケアは人づくりという考えのもと、外部研修には積極的に受講させるとともに、内部においてもその伝達研修のほか、ケース検討など、ケア会議で研修を行なっている。また、母体施設(特養 光栄荘)が主宰する各種研修会や委員会に参加するほか、町の認知症ケア研修会にも出席し、全職員の資質向上に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県域及びブロックの岩手県グループホーム協会の定例会に参加し、課題の討論や情報交換を通して、交流を深めている。また、普段のケアについても同業者との電話等による相談や情報交換などを行い、職員の質、利用者サービスの質の向上につなげている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用にあたっては、これまでの生活歴や生活状況(自宅やデイサービス利用など)を小まめに把握するとともに、本人及び家族の来所見学により、職員等と茶飲み話しなどを通じ、グループホームの雰囲気を感してもらい、利用者及び家族が納得して利用するよう取り組んでいる。利用開始後は、家族と連携を図り、ホームになじめるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	普段の生活支援の中で個々の利用者寄り添い、本人の思いや不安、願いなどにも耳を傾けることを心得ており、かつての生活習慣や風習、野菜づくりのコツや郷土料理づくり等を教わっている。また、その情報は職員間で共有しあいながら、利用者と共に生活する関係づくりに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	買い物や、食事、入浴時での会話や訴え、何気ない行動や表情等から、利用者の思いや意向を意識的に汲み取るように心がけている。特に、帰宅願望のある利用者には、「本人にとってどうなのか」という視点で、その安定に向けて 家族を交えて時間をかけて対応策を検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	「みんなで係り、みんなで作る介護計画」という考えのもと、アセスメントを含めて、ケアについて本人や家族等から出来るだけ小まめに思いや意見を聴きながら、全職員が話し合いを重ねてケアプランを作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月、本人の普段の暮らしぶりや健康状況などについてモニタリングを行っている。また、3ヶ月ごとに計画の評価・見直しを行なうとともに、見直しの際は家族の意見要望などを取り入れている。なお、急激な状態の変化等については状態に応じてその都度見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	散歩や買い物、ドライブ、行事への参加など、外出するときは、利用者の希望により、また場所は、出来る限り本人の意向の沿い、臨機応変かつ柔軟に対応している。また、通院支援についても家族等の理解と協力を得ながら、職員同行により行なっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の多くは、協力病院である町立病院をかかりつけ医としており、その受診の支援には職員が対応している。町立病院以外のかかりつけ医への受診については、家族の付き添いが困難のときは、職員が必要な支援を行なっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	昨年8月、医療連携による「看取りに関する指針」を定め、本人及び家族等に説明し、同意を得ている。なお、職員に対して指針の説明をしているが、その看取りに関する具体的対応方法などについては、必ずしも、十分に理解や共有はされていないとしている。	○	全職員が安心・安定して看取りに対応できる体制づくりのため、その具体的対応方法などの勉強・研修の積み重ねを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	「認知症に上手に接するための基本事項」を定めて、利用者へのプライバシーに配慮したり、常に職員間で注意し合える雰囲気をつくるなど、個々人の尊厳を守る生活支援をしている。ケース記録等個人情報は、外部からは見えないように整理・保管するなど、その徹底を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や食事、買い物、散歩等の外出時は、常に利用者に声かけをしながら、その日の利用者の体調や気分、意欲やペースに沿うよう支援している。また、体を動かしたい人、ゆっくり過ごしたい人など、その人らしく日々の暮らしができるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事メニューは、利用者と相談しながら決めている。行事や記念日等には特別メニューをつくって楽しんだり、みんなで作業した畑やプランターの野菜を収穫、食卓に並べ、その話題で盛り上がるなど、賑やかに楽しみながら食事を摂っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	概ね週3回の入浴を目安に希望の時間帯に入浴している。入浴を拒む利用者には無理強いせず、声かけ等の工夫、日をずらすなど、一人ひとりに合わせた入浴支援を行なっている。季節を感じるように、ゆず湯や菖蒲湯にしたり、入浴剤を変えたり、入浴をより楽しめるように工夫をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者それぞれが、出来ること、得意なことなど、その能力と意欲を発揮して欲しいとの願いから、職員が工夫して作成した「役割チェック表」(来客の出迎え、見送り、食事づくり、畑作業等)を通して、日々張り合いのある生活、変化を実感できる具体的な支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	普段は近隣や敷地内の散歩、季節ごとのドライブなど、戸外への活動を出来る限り支援をしている。このほか利用者個人での理美容や行事への参加、また、家族と一緒に出身地域の住民と交流する場づくりや機会づくりなどを工夫しながら取り組んでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	皆が利用する玄関には出入り確認のセンサーを設置しているが、利用者は職員等の見守りのもとで自由に入出入りができる状態にある。利用者が、独り出かけた際には、制止はせず利用者の安心できる声かけ等で対応している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	母体施設(特養ホーム)や近隣地域、推進会議委員、消防署等の参加協力の下、年2回避難訓練を実施している。ホーム内には避難経路図や消火器の使用方法を図式化し、常に職員が目にする場所に掲示し、利用者の避難をスムーズに誘導できるよう工夫している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食量や水分量の摂り方の少ない利用者については、目配り、気配り、チェックするなどして、その不足がないように支援をしている。献立や栄養バランス、カロリーについては、随時管理栄養士のアドバイスを受けるほか、キザミ食に代わる食事方法などもその指導を受けて工夫している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓を通した明るい光を受けた広々とした、共用スペースには、テーブル、ソファやテレビがゆったりと配置され、コタツや畳の小上がりものんびりさを演出している。利用者はそれぞれ思い思いの場所で一人あるいは二人で話したりして過ごしている。季節感が感じられるように、季節の花も飾られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビなど電化製品や時計など、自宅で使い慣れたものの持ち込みは少ないものの、ご自身やご家族等の写真、手づくりの作品などを壁に思い思いに飾り、ホームの配慮で備えたベッド等家具を上手に使って、それぞれその人らしく居心地よく暮らしている。		